

1. 調査の概要

巡回バスは、公共施設利用の利便の向上及び高齢者や子どもなどの移動制約者の通院、買い物等の日常生活支援のために運行している。

そこで、通勤・通学に対応する必要性についての検討及び巡回バス全般に対する意見の集約を行い、今後の見直しの基礎資料とすることを目的とし、令和6年 11 月～12 月に巡回バスに関するアンケート調査を実施した。

2. 調査結果まとめ

(1) 市内企業・高校生

- ・市内企業の従業者、市内の高校への通学者の住所は「津島市以外」が半数を超える。
- ・「通勤・通学」手段
企業：「自家用車」77.8%、「自転車」7.4%、「路線バス」「鉄道(名鉄)」5.6%
高校生：「自転車」78.3%、「鉄道(名鉄)」40.1%
- ・「通勤・通学」先付近で運行していたら巡回バスを利用したい割合
企業：22.2%
高校生：20.5%（高校別・・・津島高校：42.3%、津島北高校：6.9%、津島東高校：9.1%）
- ・「通勤・通学」で巡回バスを利用したい人の
自宅を出発する時間帯・・・7～8時が最も多い
帰宅する時間帯・・・18～19時が最も多い

(2) 市民

- ・巡回バスの主な利用目的・・・「買い物」42.1%、「通院」25.1%、「通勤・通学」10.3%
- ・運行本数の増加希望・・・Aコースの朝が最も多く、次いでBコースの朝、Cコースの昼
- ・運行開始時間帯の拡大・・・Aコースの8時が最も多い
- ・運行終了時間帯の拡大・・・Aコースの19時が最も多い
- ・運賃の許容範囲・・・300円が多いものの、高校生は200円が多い
小学生以下の運賃は無料が最も多い
- ・効果的な取組・・・「運行ルート・停留所の場所がわかる地図やわかりやすい時刻表を提供する」30.6%と最も多く、次いで「割引サービスを導入する」26.7%、「運行本数を増やす」26.3%
- ・「通勤・通学」で巡回バスを利用したい人の
自宅を出発する時間帯・・・7～8時が最も多い
帰宅する時間帯・・・18～19時が最も多い
小学校区・・・「西小学校区」20.9%と最も多く、次いで「神島田小学校区」17.6%
年齢・・・「50～59歳」が最も多く、次いで「40～49歳」
- ・「通勤・通学」でよく行く方面・・・「名古屋市」が最も多い

	巡回バスに関する調査 (一般市民)	巡回バスに関する調査	
		市内企業	市内高校生
調査地域	津島市全域	津島市内の企業	津島市内の公立高校
調査対象	17歳以上の市民	就業者	高校生
対象者数	2,000件	-	-
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出	1学年全員
有効回収数	666件	54件	207件
有効回収率	33.3%	-	-

3. 対応策（案）

(1) ルート・ダイヤの最適化

Aコースの朝、Bコースの朝、Cコースの昼の時間帯に増便／運行開始時間を7時台へ前倒し、終了時間を19時頃まで延長

(2) 利用促進策

小学生以下の運賃無料を継続し、家族利用を促進／企業・学校と協力し、通勤・通学者向け定期券割引制度を導入／バス停・ルート案内を分かりやすい地図にブラッシュアップ／40～50歳代に向けて、時間の有効活用や健康維持を強調したバス利用のメリットをPR

(3) 財政負担と持続可能性

現行運賃からの値上げの検討／バス車両への企業広告の掲載や停留所等へのスポンサー企業の募集による収益確保の実施

4. 通勤・通学対応の必要性の検証

- ・Aコースにおいて7～8時、18～19時の時間帯に通勤・通学専用便を運行することの検討が必要と考えられる。
- ・なお、津島市外からの通勤・通学者が多く、また名古屋市へ通勤・通学する市民が多いため、津島駅で乗り継ぎしやすい時間設定とすることが望ましい。
- ・市の負担額が増加したとしても、巡回バスが「通勤・通学」に対応することには、企業の6割弱、高校生の約7割が賛成し、津島高校では約8割が賛成となっているものの、市外からの通勤・通学者が半数を超えている。
- ・一方、市民としては、賛成39.6%、反対26.6%と賛成が反対を上回っているものの、賛成は約4割にとどまっている。



実証実験を行った上で本格導入するか判断するなど、十分な検討が望まれる

- ・大人の運賃の許容範囲は300円が多いが、高校生は200円を希望している。巡回バスで通勤・通学対応を行う場合は、定期券制度の導入が望まれる（モバイル定期券等）。